

ウェブリー

WEBLY

ウェブアクセシビリティ総合支援サービス

株式会社 先駆

2024年4月

ウェブアクセシビリティ対応のメリット

1. 市場の拡大
2. ブランドイメージの向上
3. 法的リスクの軽減
4. ユーザーエクスペリエンスの向上
5. WEBサイト集客数の増加（SEOの向上）

メリット 1 : 市場の拡大

障害を持つ人々の市場規模

世界保健機関（WHO）によると、世界の障害を持つ人口は約10億人以上と推定されています。国や地域によって異なりますが、これは**世界人口の約15%**に相当します。

周囲の影響

障害を持つ人々だけでなく、彼らの**家族、友人、同僚なども影響を受けます**。家族や友人は、アクセシビリティが良い企業を支持し、それらの製品やサービスを利用する傾向にあります。

障害を持つ人々の購買力

米国のある研究によると、障害を持つ成人の年間可処分所得は数百億ドルに上り、障害を持つ人々は自分たちのニーズに合った製品やサービスに対して**忠誠心を持ちやすい**とされています。

年齢と障害

人口の高齢化が進むにつれて、障害を抱える人が増えていきます。このことは、ウェブアクセシビリティのニーズが増大することを意味し、**高齢者市場へのアプローチ**という観点からも重要です。

メリット2：ブランドイメージの向上

社会的責任と倫理的イメージ

現代の消費者は、製品やサービスの品質だけでなく、企業の社会的責任や倫理的態度にも注目しています。ウェブアクセシビリティに取り組むことは、企業がすべての人々、特に**障害を持つ人々に対して配慮しているという強いメッセージを発信**し、企業が倫理的で責任ある行動を取っているという印象を消費者に与え、**ブランドの信頼性と評価を高め**ます。

他社との差別化

他社と差別化するための要因としてアクセシビリティは非常に価値があります。アクセシブルなウェブサイトやサービスを提供することで、企業は革新的で顧客志向の姿勢を示し、**ポジティブなブランドイメージを構築**することができます。

口コミと評判の向上

アクセシビリティに優れた製品やサービスは、顧客による**積極的な口コミ**を促し、オンラインやオフラインでの評判を向上させます。特に**障害を持つコミュニティは密接に連携**しており、ポジティブな体験は迅速に共有されます。

メリット3：法的リスクの軽減

障害者差別解消法

2024年4月から、一般企業にも**合理的配慮が法的義務**となり、個々の障害者との関係における個別の場面の対応において合理的配慮を欠くと法令違反となる恐れがあります。そして、「環境の整備」は、努力義務とされていますが、「環境の整備」の一環としてのウェブアクセシビリティ対応は、結果として**障害者への合理的配慮の提供を必要とする場面が減る**ことにつながります。

訴訟リスクの低減

日本国内では、ウェブアクセシビリティに関する法的訴訟はまだ一般的ではありませんが、**世界的な傾向として、ウェブアクセシビリティに関する訴訟は増加**していますので、将来的なリスクを予防する観点から重要な取り組みです。

企業の国際的な評価

企業が国際的な市場で事業を展開する場合、特に欧米市場ではウェブアクセシビリティが法的要件として強く求められているため、**企業の国際的な評価にも影響**を与える可能性があります。

メリット4：ユーザーエクスペリエンスの向上

利便性とナビゲーションの改善

アクセシブルなウェブサイトは、**ナビゲーションが明瞭で、情報が探しやすい設計**になっています。たとえば、キーボードナビゲーションのサポート、明確な見出し、意味のあるリンクテキストなどは、障害を持つユーザーだけでなく、全てのユーザーにとって使いやすいインターフェースを提供します。

コンテンツの理解しやすさ

アクセシビリティの基準に従うことで、**コンテンツはより明瞭かつ理解しやす**くなります。簡潔で明確な言葉遣い、適切なテキストサイズ、コントラストの高い色使いなどは、視覚障害者だけでなく、高齢者や非母語話者にも役立ちます。

多様なユーザーのニーズに対応

アクセシビリティの改善は、**幅広いユーザーのニーズに対応**します。例えば、字幕や音声解説の提供は、聴覚障害者だけでなく、非母語話者や騒がしい環境でコンテンツを視聴するユーザーにも役立ちます。

メリット5：WEBサイト集客数の増加

改善されたコンテンツの構造

ウェブアクセシビリティの基準に従って構築されたウェブサイトは、より構造化されていて、情報が明確に整理されています。見出しタグ（H1、H2、H3など）の適切な使用、リストやテーブルの明瞭なマークアップは、**検索エンジンがコンテンツを理解しやすくする**ため、SEOに有利です。

代替テキストの利用

画像や動画に代替テキスト（altテキスト）を提供するのは、検索エンジンにコンテンツの内容を伝える手段として機能し、**検索結果の関連性を高める**ことに役立ちます。

リンクとナビゲーションの明瞭化

アクセシブルなウェブサイトでは、ユーザーだけでなく、検索エンジンもサイトの構造とナビゲーションを理解しやすくなり、**ウェブサイトのクロールとインデックス作成が効果的**に行われます。

サービス紹介

ウェブアクセシビリティ総合支援サービス

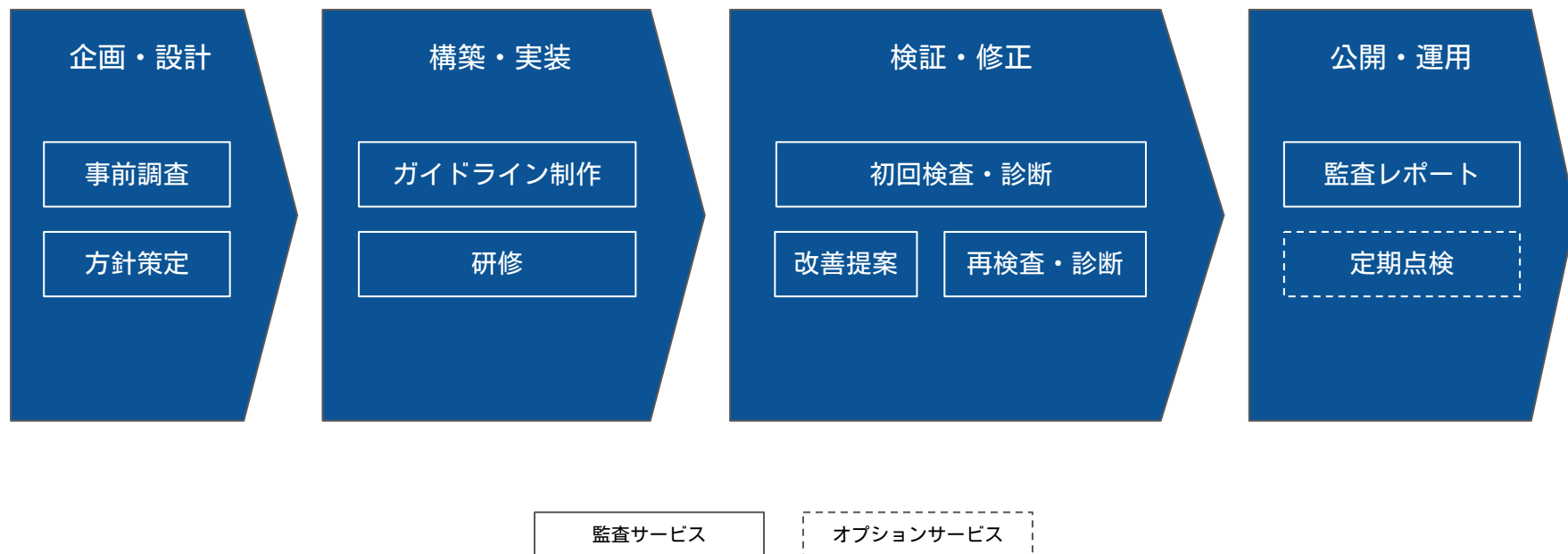
ウェブアクセシビリティへの取り組みは、事前調査から始まり、ウェブアクセシビリティ方針の策定、ガイドラインの作成、スタッフ研修、検査・診断、改善・改修作業、再検査・診断、監査レポートの公表、定期点検など、多岐にわたる長期プロジェクトです。

これには、社内の各部門の理解を得ること、具体的な知識とスキルの向上、プロジェクト管理など、企業にとって導入を困難にする多くの要因が含まれます。

私たち先駆では、このような問題に直面する企業や法人に対し、プロジェクトの初期段階から終了まで、そして導入後も、**包括的かつ継続的なサービス**を提供しています。



サービス全体フロー



事前調査

ウェブアクセシビリティの対応を本格的に行っていないウェブサイトに対し、おおよそどの程度、対応がされているかをスピーディーに調査致します。（ご依頼より2営業日）

25個あるレベルAの達成基準より厳選した12の達成基準を満たしているか、10ページの検査・診断を行います。問題があると診断された箇所については改善案を提示します。

条件	公開中のウェブサイト（制作中のものはお受けできません）
想定	監査対象10ページ
成果物	達成基準状況表、実装チェック結果表（改善案付き）

方針策定

ウェブアクセシビリティへの対応は、1度限りではなく、継続して取り組むべきプロジェクトであり、『JIS X 8341-3:2016』では、該当サイトが何を目標しているかを示す方針を定めることが推奨されています。

近年では、GoogleマップやYouTubeの動画埋め込みなど、外部サービスをサイト内で利用するケースが増え、サイト内で一部ウェブアクセシビリティに完全対応できないケースも増えてきました。

これらを踏まえ、ウェブアクセシビリティを確保する対象を定め、現サイトを構成する機能やコンテンツ状況から、目標とする適合レベルの妥当性を検討し方針書としてまとめます。

条件	既に決められている場合でも、状況と目標がかけ離れている場合は、妥当性を鑑みて再提案させていただくことができます
成果物	ウェブアクセシビリティ方針書

レポートサンプル

検査ウェブサイト名	サンプルサイト	
検査ウェブサイトURL	https://sample-site.ne.jp/	
検査日	2019年12月5日～2019年12月6日	
検査実施担当者	株式会社先駆 アクセシビリティ検査技師	
検査に利用したツール	Google Chrome、A11yc、The W3C Markup Service、Free Online XML Validator (Well fo	
検査対象ページ		
	ページ名	URL
A	トップページ	https://sample-site.ne.jp/
B	セカンドページ1	https://sample-site.ne.jp/doc/japanese/access.html
C	セカンドページ2	https://sample-site.ne.jp/doc/japanese/world.html
D	セカンドページ3	https://sample-site.ne.jp/doc/japanese/sample.html
E	セカンドページ4	https://sample-site.ne.jp/doc/japanese/resource.html

1. 非テキストコンテンツ

・ alt属性を使用してimg要素の説明をしているか

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計/平均
該当箇所	6	3	3	3	3	3	3	5	3	3	35
未対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対応率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

・ object要素の説明をボディに記述しているか

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計/平均
該当箇所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	該当なし
未対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
対応率											該当なし

・ area要素の説明をボディに記述しているか

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計/平均
該当箇所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	該当なし
未対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
対応率											該当なし

・ 非テキストコンテンツの代わりとなるテキストが記述されているか

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計/平均
該当箇所	5	2	2	2	2	2	2	2	2	1	22
未対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対応率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

・ 音声ブラウザなどが無視すべきimg要素への対応をしているか

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計/平均
該当箇所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	該当なし
未対応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
対応率											該当なし

ガイドライン制作

一般的に、ウェブアクセシビリティガイドラインは、W3Cが提供するWeb Content Accessibility Guidelines (WCAG) を基にしますが、あらゆることを想定したWCAGは、記述量が膨大で、対象とするウェブサイトと関係のない記述もあり、これからウェブアクセシビリティを習得する担当者にとって難易度の高いものになります。

このガイドラインをお客様が運営する対象サイトに合わせて調整し、より使いやすいものにして提供します。これにより、貴社でウェブアクセシビリティを保つための基準を持つことができます。

条件	ウェブアクセシビリティ監査サービスご発注のお客様に限ります
成果物	対象サイトにあったウェブアクセシビリティガイドライン

ガイドライン例

テキスト以外の情報について、以下の方法で代替します。

画像

全ての画像には必ずalt属性を指定します。

```

```

短い説明で代替可能な画像の場合

利用者にとって情報として意味を持った画像は、情報の内容をalt属性として指定する。グラフ画像、地図画像など、複雑な説明が必要な画像の場合は、簡潔な名称や説明のみで指定し、完全な説明は、ページ本文内にテキストで配置する。

情報として意味のない画像の場合

情報として意味のない画像は、alt=""と指定する。
あるいはCSSから画像を読み込み表示する。

リンク画像

リンク画像のalt属性には、利用者がリンク先のページの内容を想像できる言葉を指定する。以下に注意する。

1. リンク先ページのページタイトル(title要素)や大見出し (h1要素) の内容など、リンク先ページの内容を代表するような言葉を用いる。
2. 画像だけにリンクが設定されている場合、alt=""とはしない。

同じページへ移動するリンク画像とリンクテキストを隣り合わせて掲載する場合は、取りとずる。

フォーム

1. フォームのラベルと対応するコントロール（テキストボックスやラジオボタンなど）をid属性とlabel要素内のfor属性により、関連付けを行う。
2. input type="checkbox"またはinput type="radio"の場合はlabel要素はinputの後に配置する。

```
<p>
  <input type="radio" name="sex" value="ma" id="male">
  <label for="male">男性</label>
  <input type="radio" name="sex" value="fe" id="female">
  <label for="female">女性</label>
</p>
```

3. キーワード検索のテキストボックスのように、ラベルとなりうるテキストを画面に表示する必要が無い場合や、ラベルを表示することで混乱を引き起こしてしまう場合は、title属性を用いてコントロール（テキストボックスやラジオボタンなど）の名称あるいは役割を示す。
4. 複数のコントロール（テキストボックスやラジオボタンなど）で構成されるフォームは、fieldset 要素及び legend 要素を用いて、グループを明示する。
5. セレクトメニューに含まれる選択肢について、関連する選択肢としてグループ化すべきものがある場合、optgroup 要素を用いて、select 要素内の option 要素をグループ化する。

情報の強調を表現する場合

1. スタイルシートを用いて赤色の太字にするなど視覚的に強調を表現する。
2. 視覚的に強調を表現することに併せて、em要素あるいはstrong要素を用いて強調部分を指定する。

```
<p>この申込みの締め切りは、<em>11月14日</em>です。</p>
```

1.3.2 意味のある順序【A】

レイアウト

1. 情報の意味の順序と、スタイルシートを読み込まない状態での表示順序あるいは音声読み上げソフトでの読み上げ順序を一致させる。

ウェブアクセシビリティ研修

貴社のチームが自らアクセシビリティを維持・改善するための知識と技術を習得できるよう、専門的な研修を提供いたします。

この研修では、障がいをお持ちの方がウェブサイトをどのように利用しているか、そしてどのようにしてサイトをアクセシブルにするかを、サンプルサイトを用いて分かりやすくご説明します。

さらに、モチベーションを高め、アクセシビリティの取り組みを促進するために、その重要性やメリットについても詳しく説明します。

条件	オンラインで実施、受講者5人まで、追加は2万円@人
提供物	WEBアクセシビリティが分かる、当社オリジナルのテキスト

ウェブアクセシビリティ監査

対象ウェブサイトに対し、レベルA、AAの達成基準を満たしているか、検査・診断を行います。問題があると診断された箇所については改善案を提示し、お客様にて改修していただきます。その後、問題があった箇所について改めて再検査を行います。

再検査の完了をもって、対象ウェブサイトがJIS X 8341-3:2016の規格に対応していることを示す監査レポートを発行いたします。

条件	公開中、制作中は問いませんが、下記の資料のご提供をお願いいたします。 (1) ページ一覧、(2) ウェブサイト仕様書 (3) アクセス権限 (※公開前のサイトの場合)
想定	1 サイト 40 ページ
成果物	達成基準状況表、実装チェック結果表 (改善案付き)

アフターメンテナンス

定期点検

ウェブサイトアクセシビリティが維持されているか、定期点検を行います。

すでに、アクセシビリティに対応しているサイトを想定しており、お客様がご自身で更新・追加されるコンテンツ（お知らせやブログ）の定期的なアクセシビリティ点検と改善提案を行います。

社内で更新した記事の定期的なチェックを受けることで、常にアクセシビリティが保たれ、また自然とアクセシビリティへの知識も深まっていきます。

条件	お客様更新コンテンツ（ニュースコーナーやブログコーナーなど）のみ対象
想定	週1本の記事追加
成果物	ページごとのレポート

サービス料金

ウェブアクセシビリティ総合支援サービス

1 サイト：198万円(税込)

事前調査、ウェブアクセシビリティ方針の策定、ガイドラインの作成、スタッフ研修、検査・診断、改善・改修作業、再検査・診断、監査レポートの公表を行います。
1 サイトにおける監査規模は、40ページを想定しております。

アフターメンテナンス定期点検

新規ページの追加頻度、追加件数に応じてお見積もりいたします。

Q&A

Q：ウェブアクセシビリティ監査はどれくらいの期間が必要ですか？

A：ウェブサイトの規模と複雑さによりますが、再検査を含めて一般的には4週間から6週間を見込んでいます。

Q：改善提案はどのような形式で提供されますか？

A：改善提案は詳細なレポートとして提供されます。
このレポートには問題点、改善案などが含まれます。

Q：研修はどのような内容になりますか？

A：研修では、ウェブアクセシビリティの基本理念、技術スキル、アクセシビリティ対応の考え方、ユーザーエクスペリエンスとデザイン、モニタリングなどをオンラインにてレクチャーします。
対面での研修をご希望される方は別途ご相談ください。

Q：ウェブアクセシビリティに関する法律や規制はどのようなものがありますか？

A：改正された障害者差別解消法が2024年4月から施行されます。これにより、全ての一般企業に「合理的配慮」の提供が法的に義務付けられました。この「合理的配慮」に、ウェブサイトを特定の基準やガイドラインに準拠させることは含まれていません。しかし、以前より努力義務とされている「環境の整備」という点において、ウェブアクセシビリティ対応は積極的に取り組むべき重要な課題といえます。そしてその取り組みは、障害者が合理的配慮を必要とする場面を減らすことになるため、多くの企業がウェブアクセシビリティの対応を始めています。

Q：定期点検サービスはどの程度の頻度で行われますか？

A：定期点検サービスの頻度は、ウェブサイトの更新費度、更新ボリュームを鑑みて、お客様と相談し決めます。

Q：ウェブアクセシビリティ対策はどれほどの影響があると考えられますか？

A：ウェブアクセシビリティ対策は、障がいを持つユーザーだけでなく、全てのユーザーの利便性を向上させます。これにより、ユーザーエンゲージメントとサイトへの信頼性が向上します。

Q：ウェブアクセシビリティ監査の結果が悪かった場合、どのような対応が必要ですか？

A：結果が良くなかった箇所について、ウェブアクセシビリティを向上させるために、デザイン修正、HTML/CSSコードの変更などの適切な対応を行う必要があります。アクセシビリティ監査では、診断・検査の結果に基づき、具体的な改善策を提案します。

Q：サービスの費用は一定ですか、それともウェブサイトの規模によって変わりますか？

A：弊社は総合サポートを目的としているため、サービス費用は、料金説明の通り、1サイトで監査対象40ページで180万円と定めております。ただし、研修、ガイドライン作成など、もし不要となる業務がありましたら、割引可能ですので、一度、ご相談ください。

Q：ウェブサイトをリニューアルする際、アクセシビリティをどのように考慮すべきですか？

A：ウェブサイトのリニューアルは、アクセシビリティを改善する絶好の機会です。

設計段階からアクセシビリティを考慮することで、後から改善するよりも効果的かつ効率的にアクセシビリティを向上させることができます。

Q：ウェブアクセシビリティの改善はSEOにも貢献しますか？

A：はい、ウェブアクセシビリティの改善はSEOにも有利です。

ウェブアクセシビリティは、全てのユーザーにとってコンテンツが分かりやすくなることを目指します。この目標は、ウェブサイトのコンテンツを検索エンジンが理解しやすいようにするというSEOの目標と一致します。

例えば、画像にaltテキストを提供することは視覚障がい者にとって重要ですが、同時に検索エンジンが画像の内容を理解するのにも役立ちます。

お問い合わせ

ウェブアクセシビリティ総合支援サービス「WEBLY」に関して何かご質問がございましたら、お気軽にお問い合わせください。また、サービスを詳しくお聞きしたい場合は、Zoom等を使って、オンラインミーティングをすることも可能です。

電話番号：042-659-2960

メールアドレス：eigyo@senku.jp